

2004年8月18日

旭硝子株式会社  
トステム株式会社

## 旭硝子・トステム 外装建材事業の統合について

旭硝子株式会社（本社：東京都千代田区、社長：門松正宏、以下旭硝子という）とトステム株式会社（本社：東京都江東区、社長：菊池光男、以下トステムという）は、両社の外装建材事業を以下の通り統合することで合意しました。

- 1．旭硝子は、本年12月1日を目途に同社の完全子会社である旭硝子外装建材株式会社（本社：東京都墨田区、社長：広瀬稔、以下AGKという）を承継会社とする窯業系外装建材事業の物的吸収会社分割を行い、同社事業を一社に集約化する。（以下分割新社という）
- 2．トステムは、来年1月5日に分割新社の株式の50%を旭硝子から取得し旭硝子と共同して会社（以下合弁新社という）運営を行う。

旭硝子とトステムとの基本合意の主な内容は下記の通りです。

- 1．合弁新社の名称は、旭トステム外装株式会社とする。（以下旭トステム外装という）
- 2．旭トステム外装の資本金は20億円とする。
- 3．旭トステム外装の取締役は両社3名ずつ指名し、計6名とする。
- 4．旭トステム外装への両社の出資比率は、旭硝子50%、トステム50%の対等出資とする。
- 5．旭トステム外装の従業員のうち、AGKの従業員を除き、両社の従業員は一定期間出向とする。
- 6．旭トステム外装は自社製造拠点で生産した窯業系外装材に加え、トステムから窯業系、金属系、INAXからタイル系外装建材を購入し、販売する。

外装建材の需要は、新築市場に於いては着工戸数の漸減により縮小傾向にありますが、非住宅用途他、特にリフォーム市場での外装建材の増加が見込まれることで、全体としてほぼ横ばいか若干縮小で推移すると予想されます。

このような市場環境に対応して業界各社は再編を加速させている中、旭硝子は窯業系外装建材において単一製品、単一販売ルートしか持たず、一方、トステムは窯業系外装建材の生産能力が極めて小さいため、両社とも苦戦を強いられ、互いに提携先を模索していました。

今般、両社の外装建材事業統合効果を最も高める方法を検討した結果、合意に至りました。両社間で確認した統合効果は次の通りです。

1. 合併新社である旭トステム外装はこれまでの各社単独で販売するのに比べ、旭硝子とトステムの2つの販売ルートを活用できること。  
すなわち、旭硝子販売ルートでは金属、タイル系外装建材の販売が可能となり、一方トステム販売ルートでは窯業系外装建材において供給力の強化により顧客ニーズに応えられるような品揃ができ、個別の販売増加を期待できること。
2. 上記2つのルートは顧客層が異なるため、相互に補完し合い相乗的な販売増加も期待できること。
3. トステムは多くの建材商品を有するため、その販売ルートからの情報（特にリフォーム情報）を窯業系外装建材の更なる販売増加に繋げることができること。
4. 窯業系外装建材にトステムの金属系、INAXのタイル系外装建材を加えることで、より幅広いニーズに応える外装建材の提案が可能となること。

なお、旭トステム外装の概要は次の通りです。

- |            |  |
|------------|--|
| 1. 社名      | 旭トステム外装株式会社  |
| 2. 会社分割期日  | 2004年12月1日   |
| 3. 所在地     | 東京都江東区大島二丁目1番1号  |
| 4. 資本金     | 20億円   |
| 5. 代表者     | 未定。但し、トステムからの出向者が就任の予定   |
| 6. 従業員数    | 約360名  |
| 7. 事業内容    | 窯業系外装建材の製造・販売<br>金属系外装建材、タイル系外装建材等の販売                                  |
| 8. 製造拠点    | 合併新社が旭硝子から譲渡を受ける現旭硝子鹿島工場<br>(茨城県鹿島郡神栖町)の当該事業製造設備<br>その他トステムからOEM供給を受ける |
| 9. 売上高(予想) | 310億円(2005年度)  |

本件に関するお問い合わせ先：

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 旭硝子(株)広報室長               | 川上 真一 |
| (担当：小田 TEL 03-3218-5408) |       |
| トステム(株)広報室長              | 渡辺 康雄 |
| (担当：坂村 TEL 03-3638-8115) |       |